

環境活動

富士通グループは、環境保全への取り組みが重要な経営課題であると認識し、IT企業としてそのもてるテクノロジーと創造力を生かし、社会の持続可能な発展に貢献しています。2002年度は、特に以下のような取り組みを実施しました。

環境会計の導入

		費用対効果の推移		(単位:億円)
		富士通単独	主要子会社	
2000年度	費用	82	109	191
	効果	111	135	246
2001年度	費用	77	110	187
	効果	123	120	243
2002年度	費用	79	110	189
	効果	88	122	210
2003年度 (予想)	費用	83	116	199
	効果	120	129	249

分類方法:環境省「環境会計ガイドライン2002年版」に準じています。

※環境会計に対する第三者認証は、2002年度も継続して取得しています。

世界初、「生分解性プラスチック」部品を ノートパソコンに採用

富士通と富士通研究所は共同で、トウモロコシやジャガイモ等の植物系素材を活用した「生分解性プラスチック」をノートパソコンの筐体部品に採用する技術を世界で初め

て開発しました。現在ノートパソコンの筐体に使われている材料の主流は、資源に限りのある石油を原料とするプラスチックです。今回開発した「生分解性プラスチック」は、たとえリサイクルから漏れて廃棄され、地中に埋められても、微生物の働きにより炭酸ガスと水に分化し自然に

社会貢献活動



JAIMS 31年の実績—2万人以上の修了生

1972年、富士通の提唱によりハワイに設立された日米経営科学研究所（JAIMS: Japan-America Institute of Management Science）は、今年で設立31年目を迎えました。グローバル時代に活躍し得るスキル・知識・国際感覚を備えた人材を育成するために、設立以来、国際教育のパイオニアとして国際マネジメント教育を提供しています。世界各国の社会人が、短期集中留学プ

同化します。また、焼却された場合でも、ダイオキシン等の有害物質の発生をゼロにすることができます。さらに、製造時の必要エネルギーも、従来品に比べて約50%の消費量で済むため、環境負荷の低減につながるだけでなく、天然素材を原料としているため石油の消費削減にも貢献します。富士通グループは、循環型社会の形成に向け、この技術をはじめとする最新技術を積極的に活用し、環境への配慮を強化したグリーン製品の開発を推進してまいります。

環境格付けランキングでトップ評価

ダウ・ジョーンズ社が実施しているサステナビリティ株式指標の環境分野において、富士通は4年連続トップの評価をいただきました。選出の理由は、2002年度中に全ての製品を環境に配慮したグリーン製品にするなど、積極的な取り組みが高く評価されたからです。また、米国の非営利団体で、ハイテク環境汚染問題に取り組むシリコンバレー有害廃棄物連合（SVTC）でも、富士通は、環境配慮に関する取り組みについてトップに評価され、世界有数のパソ

コンメーカー28社中、唯一合格点が提示されました。高く評価されたポイントとして、鉛を使わない製造手法の採用、消費者への情報公開の充実などが挙げられました。

ITソリューションによる環境への貢献 —ソフト・サービスアセスメント

富士通グループでは、ITの活用によるお客様の業務効率化などを通じて、資源やエネルギー消費の低減に貢献する取り組みを行っています。お客様の事業に関する各段階（素材調達／製造／流通／使用・消費／廃棄）ごとに環境負荷を低減できる項目について洗い出し、資源の活用、エネルギー効率を高めるソリューションを提案しています。例えば、引越し時における転入・転出届出の申請手続きを電子化した場合の環境効果について試算したところ、紙や交通機関の使用回避によるCO₂の削減とサーバ類の使用によるCO₂の増加を合算し、全体で約30%のCO₂を削減できることがわかりました。

ログラム（Intercultural Management Program）、ハワイ大学と提携して共同開発した日本式経営と中国式経営に焦点を当てたMBAプログラム（Japan-focused MBA program/China-focused MBA program）、最新ビジネス動向を探る海外セミナーやお客様のご要望に応じたオーダーメイドの海外セミナーに参加しています。

国際数学オリンピック大会（IMO）

国際数学オリンピック大会は、全ての国の数学的才能に恵まれた若者を見出し、その才能を伸ばすチャンス

を与えること、また、世界中の数学好きの少年少女および数学教育関係者達が相互に交流を深めることを目的として開催される国際コンペティションです。1959年にルーマニアで開催された第1回大会以来、参加各国の持ち回りで毎年開催されており、日本は第31回中国大会（1990年）から参加しています。

大会本番では、各国選手が合計6問の難問に挑み、その成績に応じて、金・銀・銅のメダルが授与されます。なお、2003年の第44回大会は日本で開催予定であり、富士通は単独スポンサーとして全面的に支援してまいります。